

PM資料ガイド

項目	Concurrent Engineering コンカレントエンジニアリング	Rev.	年月日	作成
		- 0	030331	霜田敏雄
対象	一般			
視点	基本解説			

コンカレントエンジニアリング (Concurrent Engineering)

コンカレント (Concurrent) とは共同して働く、一緒に働く、お互いに協力するという意味を持っている。従ってコンカレントエンジニアリング (Concurrent Engineering) とは、共同してエンジニアリングを行う、お互いに協力してエンジニアリングを行うという意味になる。

プロジェクトにおけるコンカレントエンジニアリング (Concurrent Engineering) とは、多くの異なる分野の技術者から成るプロジェクトチーム (Multi - Disciplinary Design Team) が、先進的な情報システムを使って作業プロセスをお互いにオープンにし、情報を共有しながらお互いの異なった作業を同時並行的に進めて行く手法をコンカレントエンジニアリングあるいは並列開発設計と言っている。

ボーイング社の新型旅客機 B - 777 に開発で取られた方法などが有名である。

今やコンカレントエンジニアリングは一般的になっている。特に大規模プロジェクトでは、工期に間に合わせるための必須手段である。そして、地球規模でのコンカレントエンジニアリングが行われている。

コンカレントエンジニアリングが効果的に行われるためには、プロジェクトの目標が明確に定義され、その目標がメンバー全員に共有されることが必要である。これにより、各人の業務を同時並行的に処理出来ることになる。

コンカレントエンジニアリングを管理する手段として、種々のスケジュールコントロールシステムが提案されているが、コンカレントエンジニアリングを進めるに最も重要なシステムは、メンバー全員が目標に向かって、情報を共有化し稼動するためのコミュニケーションの基盤システムである。これをプロジェクト情報管理システムと呼んでいる。このシステムはチーム内の誰もが容易にアクセスできるシステムでなければならない。

プロジェクト管理に WBS を活用し、進捗度管理に EVMS を活用するのが一般的になりつつあるが、プロジェクト運営においては、各プロジェクトが関連する他の業務の進捗状況をすばやく知ることが必要である。全体の進捗に支障を来さないように、そしてお互いの不利益にならないように、プロジェクトを同時並行的に進めて行くことにより、コンカレントエンジニアリングの真の目的が達成される。